

新規事業採択時評価結果（平成17年度新規着工準備箇所）

担当課：国道・防災課

担当課長名：鈴木 克宗

事業の概要

事業名	一般国道312号 野田川大宮道路	事業区分	一般国道	事業主体	京都府
起終点	自：京都府宮津市須津 至：京都府京丹後市大宮町森本	延長	4.3km		
<p><b>事業概要</b></p> <p>鳥取豊岡宮津自動車道は、鳥取市から豊岡市を経て宮津市に至る延長約120kmの地域高規格道路で、高規格幹線道路の北近畿豊岡自動車道や京都縦貫自動車道等とあわせ、広域的なネットワークを形成する道路である。野田川大宮道路は、(仮)野田川岩滝インターから(仮)大宮森本インターまでの延長4.3km間の整備を行い、京都縦貫自動車道全線（京都～宮津間）供用予定の平成20年代半ばに合わせた整備を行うものである。工事工程等から平成17年度から事業化に向けた調査等を実施し（着工準備）、平成18年度事業着手を予定している。</p> <p><b>事業の目的、必要性</b></p> <p>京都縦貫自動車道と併せて野田川大宮道路の整備を行い、京都を南北に縦貫する高速道路ネットワークを形成し府北部地域と京阪神とを結ぶ広域交通を担うとともに、国道312号との機能分担を図ることにより、交通の円滑化と安全性の向上を図る。</p> <p>野田川大宮道路の整備により、新しく誕生した府最北の京丹後市の社会経済活動や観光産業振興を支援する。</p>					
全体事業費	160億円	計画交通量	7,700台/日		
<p><b>事業概要図</b></p> <p>凡例          黒線 供用中          赤線 新規事業化</p>					

事業評価結果

費用対便益	B/C	3.5	総費用：137億円 （事業費：118億円 維持管理費：19億円）	総便益：483億円 （走行時間短縮便益：422億円 走行費用減少便益：46億円 交通事故減少便益：15億円）	基準年 平成16年
	事業の影響				
事業の影響	自動車や歩行者への影響	評価項目	評価	根拠	
		渋滞対策	-	注目すべき影響はない	
		事故対策	-	注目すべき影響はない	
		歩行空間	-	注目すべき影響はない	
	社会全体への影響	住民生活		高度医療サービスの拡大に貢献（搬送時間短縮：京都縦貫自動車道の整備と合わせ、京都市～京丹後市間160分が105分に短縮される）	
		地域経済		京阪神地域との時間距離の短縮により、丹後地域の観光産業の支援、物流の利便性の向上（丹後ちりめん等）が見込まれる。	
災害			現道の国道312号は、第一次緊急輸送道路に位置付けられている。現道の区間に道路防災総点検箇所対策箇所が2箇所存在する。		
環境			CO <sub>2</sub> 排出削減量：4920t/年		
	地域社会		冬期通行困難区間(除雪回数10回/年)、事故多発箇所(17件/年)の回避 災害時のダブルネットワークの確保		
事業実施環境			宮津野田川道路を事業実施しており、事業が順調に進んでいることから、府最北の市である京丹後市域までの早期事業化が望まれている。		

<p><b>関係する地方公共団体等の意見</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・丹後・地域高規格道路推進協議会(H15.7、H15.9、H16.9、H17.1)、京丹後市長(H16.12)</li> <li>・京都府町村議会議長会(H15.9、H16.9)、京都府商工会議所連合会(H15.4、H15.9)</li> <li>・丹後機械工業協同組合(H15.4、H15.11、H17.3)、丹後織物工業組合(H15.4)</li> </ul> <p>その他多数要望あり</p>
---

<p><b>事業採択の前提条件</b></p> <p>費用対便益：便益が費用を上回っている</p> <p>都市計画変更：最新の交通量予測に基づく計画規模、早期供用のための道路構造・規格の見直しを行い、都市計画変更をしたうえ事業着手する。</p>
--

採択の理由

費用対便益比が3.5と、便益が費用を上回っており、事業採択の前提条件が確認できる。本事業は、地域高規格道路として京都府南北高速道路軸を形成するとともに、日本海側の高速道路ネットワークを形成する道路であり、時間短縮、交流・連携促進を図る上で非常に必要性が高い。また、新しく誕生した京丹後市の新たなまちづくり支援のため、一日も早い高速道路ネットワークの整備が不可欠である。以上より、本事業を採択した。

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。